

「まちを見る感性」を育むまち歩きプログラムの開発と評価 - 地域愛着及び主観的幸福感への影響に着目して -

Development and Evaluation of a Town-Walking Program to Foster "Sensibility to See the Town"
-Focusing on Its Impact on Regional Attachment and Subjective Well-Being -

人文社会芸術総合研究科

安倍 ひより

Abe Hiyori

研究目的

近年、主観的幸福感が着目されており、地域愛着との関係が指摘されている。地域愛着を育む手法としてまち歩きが注目されているが、その方法論は十分に蓄積されていない。そこで本研究では、まち歩きの際に人が何を見て、それをどう感じたり意味づけるかを「まちを見る感性」と定義し、これを育むことで、地域愛着及び主観的幸福感向上を目的としたまち歩きプログラムを開発することを目的とする。

結果

①「まちを見る感性」と地域愛着及び主観的幸福感の関係

大学生を対象に実施したアンケート調査の分析の結果、「まちを見る感性」は、地域愛着を介して主観的幸福感に影響を与えることが分かり、「まちを見る感性」と主観的幸福感に関係があることが明らかとなった。また、「まちを見る感性」がどのように地域愛着を高めるかに着目すると、まちで見たものから想像や再考を促進することによって、地域愛着に影響を与えることが明らかとなった。

②「まちを見る感性」を育むプログラムの実践と評価

地域愛着を高めることが明らかになった、まちで見たものに対して想像や再考を働かせるプロセスに着目し、それらを促進することに着目したまち歩きプログラムを企画・実践した。14名の参加者に対するアンケート調査及びヒアリング調査の結果から、プログラムへの参加を通して、参加者の地域愛着及び主観的幸福感の向上が確認された。

①「まちを見る感性」と地域愛着及び主観的幸福感の関係

「まちを見る感性」と地域愛着及び主観的幸福感の関係を明らかにするため、富山大学の一般教養を受講する学生へのアンケート調査を実施した。

共分散構造分析を実施し、以下の結果が得られた(図1)。

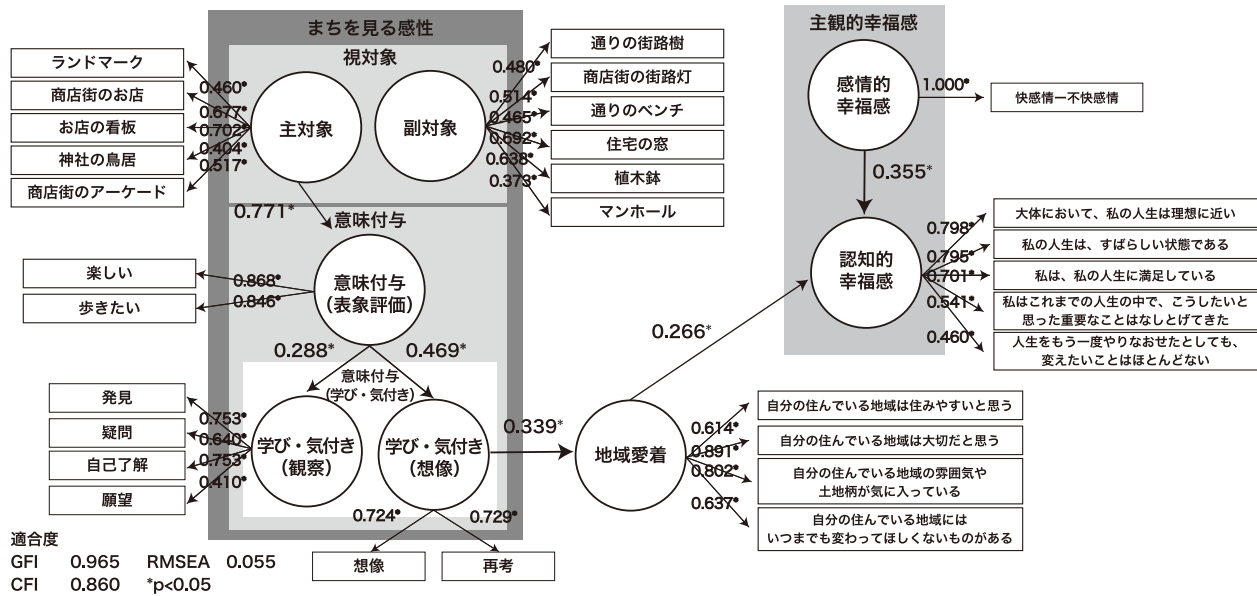


図1 共分散構造分析の結果

②「まちを見る感性」を育むプログラムの実践と評価

富山県富山市総曲輪周辺地域を対象に、「総曲輪のまちを歩いて、みんなの私視点地図を作ろう」という3連続の企画を実施した。プログラムの様子は以下の通りである(写真1~3)。



写真1 筆者が総曲輪のまちを案内する様子



写真2 地図を制作する様子



写真3 制作した地図を案内する様子